

実施主体、事業名などの概要

- ・事業名：北海道南十勝の自然共生サイト・OECMと国立公園を対比しながら日本の自然観を観て感じ取れるエコツアーの多言語対応化
- ・実施主体：一般財団法人史春森林財団
- ・対象地域：北海道広尾町・大樹町
- ・対象とする良好な環境：自然共生サイト・国立公園景観・地域の農林漁業

地域の現状・課題

- ❑ 大樹町・広尾町では、農林漁担当課、教育委、観光協会、環境教育部門と信頼関係を築いてきました
- ❑ 広域連携の観光協議会、DMO等複数存在、国立公園誕生で気運は有、体験型・研修型コンテンツが課題
- ❑ 自然共生サイト・OECM・国立公園化を活かす研修的ツアーを森を軸に造成したい
- ❑ 生物多様性に配慮した非営利徹底型の財団⇒地域に還元する森林経営

目指すべき姿（中長期ビジョン）

- ❑ まちづくり、自然景観、農林漁連携の観光を、将来の人材育成しつつ事業化
- ❑ 10年後、森林作業現場で若い人が多言語AI活用しながら作業体験や森の多様性を案内する
- ❑ 史春の経営特性を活かし、自然共生経営を学ぶ研修ツアー（特に海外からの親日層に対して）
- ❑ 訪日外国人消費50万円、地方宿泊4, 5泊、旅行者数50人/年

実施項目（事業内での取組）

- ❑ 森林経営と生物多様性の関係：現場説明口上の多言語化、紙芝居・看板化
- ❑ VR・ドローン映像のWEB発信
- ❑ 畜・漁・木工等連携先カタログ化
- ❑ 専門家向け（特にIPSI）プロモーション

R7：ストーリー構築

R8：ツアー造成・プロモーション

R9：ツアー販売

（事業期間終了後）

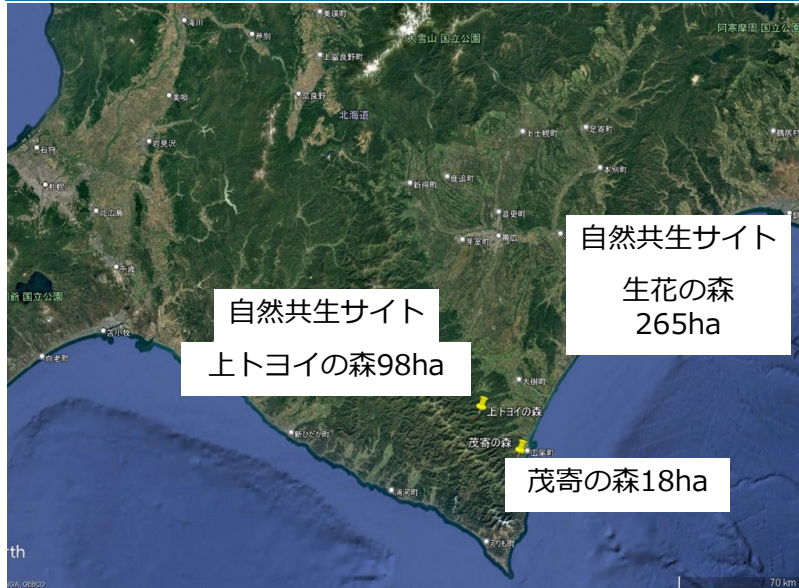
実施項目（事業内での取組）

- ❑ 地元人材への展開・実行体制構築
- ❑ 国内外プロモーション
- ❑ モニターツアー
- ❑ ツアー商品販売試行

実施項目（自走化）

- ❑ 日本の北方林ツーリズム組織化
- ❑ IPSI経由専門家向けツアー
- ❑ 一般向け日本の北方林ツアー
- ❑ 日本らしい“自然共生経営”企業研修

対象となる良好な環境の概要



- 縄文時代からの住居痕跡、18世紀まではミズナラ・カシワの原生林
- 19世紀農地開拓・燃材採取で伐採・二次林化
- 20世紀に一部人工林化、林業生産の計画的継続による生物多様性の向上
- 自然共生サイト・OECM認定、日高山脈の国立公園化
- 森林の経営特性：非営利徹底型財団法人で生物多様性と地域に再投資する使命
- 60年サイクルの永続的木材生産：保持林業（Retention Forestry）と景観施業
- 農林漁業が生物多様性を支える日本的OECM = SATOYAMAイニシアティブ
- 日本最大の国立公園区域との役割分担、連続性担保、景観価値
- 近郊二次林における混交林化テーマの子ども向けプログラムで人材育成
- 有機的放牧の畜産体験、昆布漁・昆布干し体験のエコツアー先行者との連携

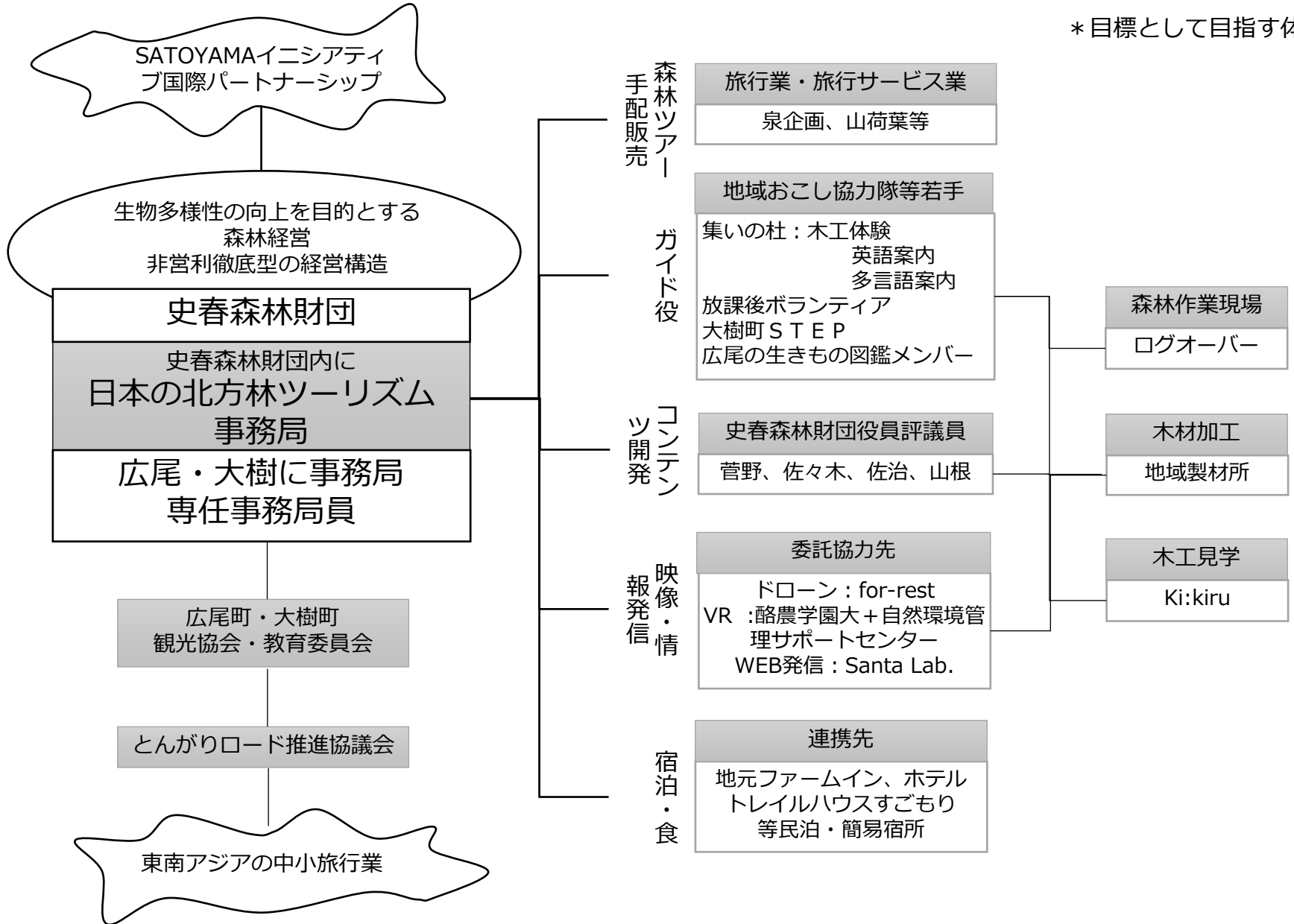
良好な環境に係るストーリー

- 日本的自然観に基づく天然生二次林・人工林の“自然共生経営”⇒生物多様性を担保している
- 畜林漁の営みが景観・生物多様性と人の暮らしを支える実像に見える化 = サステイナブルな地域経営・日本らしいOECM
- 背景にある恵まれた気候条件が育む日本的“自然共生経営”→次代経営へのヒントを探る研修ツアー



実施体制（図示）

* 目標として目指す体制



【R7年度取組】

口上の多言語化、紙芝居・看板化【済】

- 森林作業の現場・経営の現場で伝えるべき口上定型文を挿絵や写真とともに英語化
- さらに数か国語に翻訳
- note上での紙芝居化
- 森林現場の案内看板化

VR・ドローン映像のWEB発信【実施中】

- 森林内の360°カメラ映像及び上空からのドローン映像を地図情報にリンクさせてWEB上で閲覧可能に
- 事前の情報把握、別の季節の様子の把握を可能に

連携先カタログ【実施中】

- 農・畜・漁・木工・写真家・自然観察・放課後ボランティア等の連携可能な人間関係（人のカタログ化）

プロモーション【実施中】

- SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ事務局（IPSI）を通じて国際的専門家関係を構築
- 海外からの日本式経営、日本型自然共生の研修需要を掘り起こし

特に工夫した点・取組成果

- noteによる共有
- VoiceTraの活用
- 作業現場からの発信
- 森林専門イラストレーターの採用
- 地元地域おこし協力隊との連携

特に工夫した点・取組成果

- 子ども向けプログラムと連動
- 地元カメラマン・WEB制作者の採用



今後のスケジュール

- 地域おこし協力隊等地元若手人材をパートタイマー的に事務局化（10月以降随時）
- とんがりロード推進協議会（浦河観光協会）との連携で東南アジアへのプロモーション

今後のスケジュール

- 11月大手研修企画会社に需要調査
- 国内IPSIメンバー向けPRイベント
- 12月台湾IPSI訪問（SATOYAMAオリンピック参加=日本の北方林OECMをPR）

R7年度のゴール

- 現場の説明コンテンツの多言語化、連携先含めツアー全体のストーリー化、WEB発信
- IPSIプロモーションの第一段階発信

課題

- ツアー商品化・受入れ体制の構築
- モニターツアーの実施
- ツアー商品の販売試行



1. 口上の多言語化、紙芝居化取組み中

[生物多様性と木材生産は両立する \(英語\)](#) | [TOMOYUKI SUGANO | note](#)

The screenshot shows a Notion page with a grid of notes. Each note includes a title, a brief description, and a thumbnail image. The notes are:

- 0-4 皆伐林縁のマント群落を育成する**
At the edge of a clear-cut area, at the edge of the surrounding forest, we grow a mantle of vegetation. T...
- 1-1 人間活動と草原植生**
Humans dug them up, cut them down, and used them as fuel to keep warm. And creating grassland...
- 1-2 日本的な生物多様性**
So the reality of biodiversity in Japan is this. There are many species and populations of plants and animals...
- 1-3 大陸や熱帯地域との違い**
On the other hand, in continental climate and tropical climates, human production activities destroy forests...
- 1-4 日本列島の気象**
There is a warm sea on the windward side of the westerlies, and it has a temperate climate. Cold air an...
- 1-5 日本列島の生物多様性**
In the Japanese archipelago like this, if there is no human activity anymore, it will become simple...
- 1-6 高木林を伐採すると**
If you open the upper layer of the forest, important grasses and shrubs for graminivorous creatures will...

2. VR・ドローン映像のWEB発信

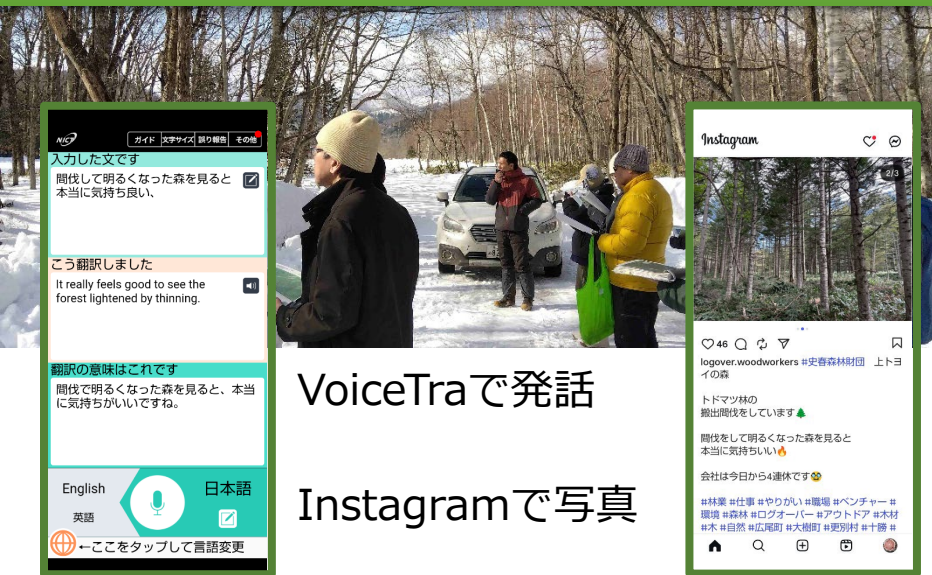
[360度VR動画ビューア](#)

The screenshot shows a VR viewer interface for 'Shirayuki no Mori'. The main view is a 360-degree VR video of a forest. The interface includes a title '茂寄の森へようこそ' (Welcome to Shirayuki no Mori) and a subtitle '森の多様性を見てください' (Please see the diversity of the forest). Below the main view, there is a section titled '茂寄の森の魅力' (The charm of Shirayuki no Mori) with a description and a small image. At the bottom, there is a '探索メニュー' (Exploration Menu) with three options: '林道ハイイク' (Forest Road Hike), '森の探索' (Forest Exploration), and '鳥の目で見ると' (See with Bird's Eye). The footer contains copyright information: '© 2019 大森製材所 All rights reserved. デザイナー: 大森製材所'.

[茂寄の森 空撮テスト](#)

補足資料-2: 特に工夫した点・取組み成果

1. VoiceTraの活用:作業現場からの発信



入力した文です
間伐して明るくなった森を見ると本当に気持ち良い。

こう翻訳しました
It really feels good to see the forest lightened by thinning.

翻訳の意味はこれです
間伐して明るくなった森を見ると、本当に気持ちがいいですね。

English 日本語
英語 日本語
ここをタップして言語変更

VoiceTraで発話

Instagramで写真

Instagram
logover.woodworkers #史春森林財団 上トヨイの森
トドマツ林の間伐をしています
間伐をして明るくなった森を見ると本当に気持ちいい
会社は今日から4連休です
#林業 #仕事 #やりがい #職場 #ペンチャー #現場 #森林 #ログオーバー #アウトドア #木材 #木 #自然 #広尾町 #大樹町 #更別村 #十勝

2. 森林専門イラストレーターの参画



3. 地元地域おこし協力隊との連携



4. 子ども向けプログラムと連動



5. 地元カメラマン・WEB制作者の参画

史春財団WEBサイト 地元紙記者・カメラマン
地域おこしイベント企画会社 飲食店経営



補足資料-3：エコツアー行程案の一例

見どころ 1：多様な樹種が織りなす豊かな生物を育む「北方林」

見どころ 2：森を守り育てる北の森の作業体験

見どころ 3：生物多様性保全と林業活動の両立への挑戦

見どころ 4：森の恵みを味わう、とっておきの食



モデルコース 森の再生／森の恵み／森－川－海の繋がり

1日目

帯広空港

13:30

生花の森 (OECM) 視察

14:00-16:00

史春森林財団 (森づくりレクチャー)

16:30-17:30

宿泊施設

18:00

2日目

宿泊施設

8:30

茂寄の森 植林体験

9:00-12:00

昼食 (地元素材弁当)

襟裳岬 海の森再生

14:00-16:00

史春森林財団 (林業関係者との対話)

16:30-17:30

宿泊施設

18:00

3日目

宿泊施設

8:30

上トヨイの森 森－川の連携

9:00-12:00

昼食 (地元料理店)

木材生産現場 (地元事業体)

交流・懇談 (ジビエ料理店)

宿泊施設

4日目

宿泊施設

自由行動 (街散策)

帯広空港

13:00

OPツアー (港・牧場など)

9:00-12:00

本事業を通して実現する「保全と活用の好循環」の仕組み



保全の具体的内容・方法

- 60年サイクルの齢級平準化
 - 小面積モザイク状の伐採配置
 - 生物多様性を優先した保持林業
(連続性や多様性のための保残)
 - 国立公園の原生景観を楽しむための景観施業
- 積極的な木材生産



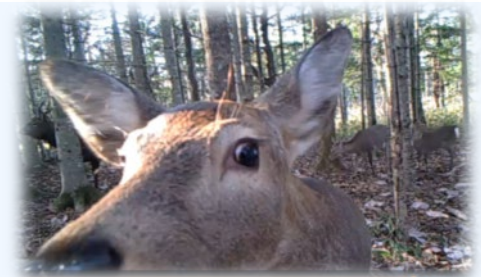
活用の具体的内容・方法

- 伐採収穫した木材の継続的販売収益と間伐補助金
- 地域需要としての建材、梱包材、パルプチップ、燃料チップ、おが粉
- 事業目的（生物多様性）への森林事業収益の再投資
- 「経営特性を見せる」研修・エコツアーの事業化
- SATOYAMA概念の具体例として海外からの視察観光
- 日本の北方林を訪ねる国内向けツアー



活用から保全への還元方法

- エコツアー事業化に向けた収益活用・人材育成
- 地域貢献としての地域木材の域内活用（サンタランドウッド）
- 地元子ども向け 森を知るプログラム
- 景観施業による国立公園山岳景観の遠望確保
- “保持林業”による生物多様性向上
- モニタリング1000里地調査の継続



【R8年度取組】

地元人材への展開 実施体制構築

- 地域おこし協力隊等地元人材を事務局員として雇用
- 事務所としての整備
- 行政、個人のネットワーク拡大



国内外プロモーション

- IPSI事務局
- 大手研修企画会社
- 地方のテーマツアー企画運営会社
- R8.3 (R8年度) IPSI-10国際会議 (エクアドル) にて日本の北方林OECMをPR

モニターツアー

- インバウンドのモニターツアーを企画・試行
- 浦河観光協会等と連携して、台湾、韓国等の旅行社への参加呼びかけ

ツアー商品販売試行

- IPSI事務局関係を経由
- 大手の企業研修ツアー会社を経由
- 地方のテーマツアー実施会社を経由
- 泉企画、山荷葉等との共同作業による試行

想定する成果

- 地域おこし協力隊等若手人材を加えた地元実行事務局体制の確立

想定する成果

- 日本に学びたい海外経営者層やIPSIを通じた生物多様性専門家層への潜在需要の掘り起こし

想定する成果

- 本格的ツアー商品化のための課題解決と地域の機運醸成



想定する成果

- 需要予測と価格適正化、着地後輸送手段、宿泊、食事等の具体的対応の適正化

R8年度のゴール

- 「日本の北方林ツーリズム」事務局の立ち上げ・営業開始
- モニターツアーの実施とそこからの教訓把握→商品化販売試行

想定される課題

- 人材の確実な確保と雇用資金の捻出
- 既存協議組織との有機的な連携
- 的確な収益配分 (連携先へのメリット提供)

